

30amE-143S

子育てにおける薬剤師の在り方を考える－兵庫県播磨薬剤師会によるママサポ会を通して－

○村岡 貴¹, 坂口 知子², 中川 素子³, 野口 栄⁴, 波多江 崇¹, 水田 恵⁵(¹神戸薬大,²じけまち調剤薬局,³中川調剤薬局,⁴アイリス薬局,⁵播磨町薬局)

【目的】厚生労働省では、地域子育て支援拠点事業を展開している。そこで、播磨薬剤師会では、薬剤師としての子育て支援の在り方を考え、全国に先立ち、平成23年度から兵庫県の委託事業としてママサポ事業を行っており、今年で2年目を迎える。今後、ママサポ会（以後、会と略す）をより充実させることを目的に、参加者を対象にアンケートを行い、現状とニーズの把握を行った。【方法】平成24年7月～10月に播磨地区で行った5回の参加者90名を対象に、13項目からなる無記名、自記式のアンケートを実施した。回収した90名のアンケートのうち、記入漏れがなかった87名の結果を解析に用いた。会の改善点を抽出する目的で、「Q14、今回この会に参加してどうでしたか」を総合満足度の指標とし、カイ2乗検定を行った。【結果】アンケートの結果、Q14は66%が「とても良かった」と回答し、31%が「まあまあ良かった」と回答したことから、参加者の多くが会に参加したことを満足していた。次に「まあまあ良かった」を何らかの不満があるとし、この判断要因を抽出した。その結果、「Q13、今気になっている事（食事のアレルギー）（子供への教育）」が抽出された。【考察】「食事のアレルギー・子供への教育」を気にする参加者にとっては不安の残る内容であったことが判明した。自由記入欄の質問や会のQ&Aの中でもあったアレルギーチェックや今後食物アレルギーが出た際の対処について、今後、会の中で取り扱う必要のある内容として挙げられた。子供への教育は会の趣旨として主に取り扱う内容ではなかったため、満足を得られなかったものと思われる。今後、薬の使用法や副作用だけでなく、参加者の生活に関する事柄を取り扱うことが、よりよいママサポ会につながると考えられる。